ハラビ（たいら）平遺跡（本発掘調査A）

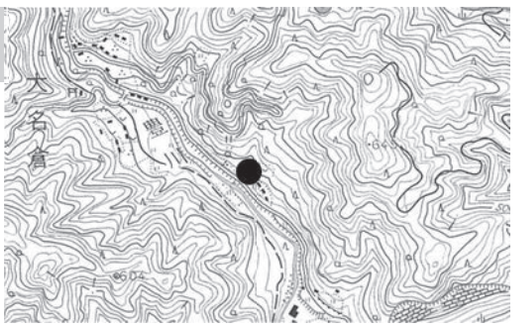
所在地　北設楽郡設楽町大名倉地内
（北緯35度6分25秒 東経137度33分1秒）

調査理由　設楽ダム

調査期間　平成30年12月

調査面積　10㎡

担当者　鈴木正貴・永井邦仁・田中　良



調査地点（1/2.5万「田口」）

調査の経過　発掘調査は、設楽ダムの建設工事に伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行った。

立地と環境　ハラビ平遺跡は、大名倉地区の豊川上流左岸に位置する。遺跡は南西方向へひらけた上下2段の緩斜面に立地する。明治時代の地籍図によれば遺跡所在地の字名は「蕨平」で、遺跡名はこれが転訛したものと考えられる。また『北設楽郡史 原始～中世』（同編纂委員会1968）には「ワラビ平遺跡」として石斧や石鏃の出土があり縄文時代中期とされている。当センターでは、平成27年度に県道33号瀬戸設楽線付近の下位緩斜面（標高429～440m）で範囲確認調査を行い、谷地形と縄文土器を検出している。

調査の概要　今回は、上位の緩斜面（標高452～464m）が対象地となった。当該地点は現状で山林となっているが、以前は果樹園および水田として利用されていた。ここに5か所のトレンチ（TTと呼称、規模は1m×2m）を設定し、地山（風化した片麻岩を含む黄褐色粘土層上面）まで掘り下げて、土層の確認と遺構や遺物の検出を行った。

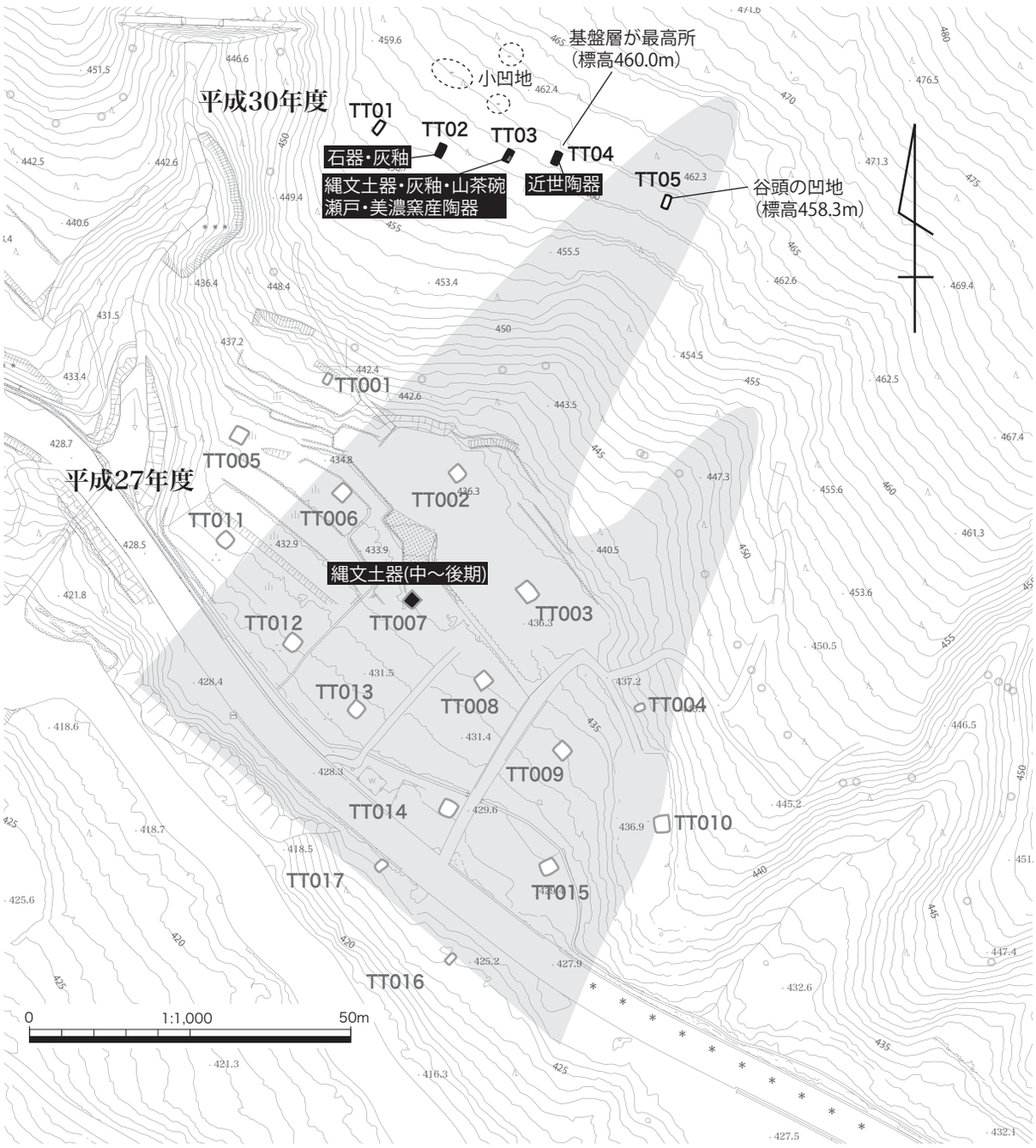
最西端のTT01からTT04までは、地表面下0.1～0.4mの厚さで黒褐色粘質土が堆積し、その下で地山が確認されている。したがってこれらのトレンチの地点は尾根筋に相当していると考えられる。このうちTT03では地山面上で小土坑2基が検出されている。一方TT05では、地表面より約1.5m下の地山まで角礫の少ない黒褐色土が厚く堆積している。このことから、当該地点では谷地形を埋めて水田としていることが明らかになった。谷地形はTT01～04の尾根筋とTT05東側の尾根筋との間にあり、地山面で比較すると高低差約1.7mの凹地である。なお、黒褐色土層からは遺物が出土していないので堆積時期を明らかにすることは難しいが、礫の混入が少ないことから土石流の可能性は低いと考えられる。

出土遺物　出土遺物は、TT02・03で石器剥片（凝灰岩・黒曜石）と灰釉陶器碗の小片が出土している。さらにTT03では山茶碗類小碗、瀬戸・美濃窯産陶器（擂鉢など）、縄文土器が出土している。TT04では近世の瀬戸・美濃窯産陶器碗が出土している。

ま と め　以上の調査結果から、上位の緩斜面では縄文時代と平安時代～戦国時代を中心とする土地利用があったことが想定される。また、地表面において直径約5mの凹地が数か所でみられる点も注意を要する。なお平成27年度の範囲確認調査では、下位の緩斜面の大半が谷地形（谷１・2）であることが想定されている。谷1はTT05付近に想定される谷地形の下方延長と考えられるが、谷1では土石流堆積とその中で縄文土器片が検出されているので、層位の連続性は認めがたい。　（永井邦仁）

調査風景（TT03付近、東から）

出土遺物（TT03）



調査の概要（S=1/1000）